

ムシカ・ポエティカより皆様へ
仲春のごあいさつを

平素より私どもムシカ・ポエティカの活動を暖かくお見守り
いただいていることに改めて感謝申し上げますとともに、この度
のご挨拶とご案内が大変遅れましたこと、心よりお詫び申し上げ
ます。

これまではムシカ・ポエティカ代表の淡野弓子より皆様へ
の便りを差し上げておりますが、諸般の事情（後述）によりそ
れが困難となりましたため、今後のお便りは私こと淡野太郎よ
り差し上げることとさせていただきますので、何卒ご了承のほ
どお願い申し上げます。

さて、母・弓子の身に起こったことをご説明しないわけにも
まいりませんので、少々長くなりますがご報告申し上げます
をお許しください。

去る1月下旬、弓子は脳梗塞を発症し倒れました。不幸中の
幸いだったのは、救急隊の到着が迅速で受け入れ病院もすぐ
に見つかり（しかも近所）、発症から数時間でカテーテルによる
血栓除去手術を受けられたことです。高齢のために血管が強く
曲がりくねっており、執刀医の先生いわく「相当大変だった」
とのことで時間も少し多めにかかったようですが、無事血栓の
除去に至り、右脳側に梗塞があったため左半身に若干の麻痺が
残ったもののその範囲は限定的で「もしかしたら思ったよりも
早く退院できるのでは」と微かな希望を抱いたのも束の間、そ
の後の検査で今度は重度の心臓弁膜症が見つかり（これが脳梗
塞の引き金となったと考えられます）、その病院ではそれに対
する処置をする体制がなかったため、御茶ノ水の順天堂医院へ
の転院を余儀なくされました。

そして2月4日（奇しくも本人の88歳の誕生日）に心臓手
術と相成りましたが、こちらはTAVIと呼ばれる経カテーテル
内視鏡手術で、2013年に健康保険適用となった治療法です。
つまり15年ほど前にはまだ一般的ではなかった技術というこ
とになり、近年の医学の進歩に改めて目を見張る思いでした。
開胸手術に比べて格段に体の負担が少ないとはいえ、やはり命
の危険が皆無というわけでもなく、ミネソタ在住の姉・桃子が
急遽一時帰国するという慌ただしさの中、4日午後に手術が行
われました。父と姉と私、家族総出で病院で待機していたので
すがなかなか手術終了の知らせが来ず、私は終了を待たずに一
足早く病院を後にしました。その日は夕方からシュッツ合唱団
の練習日で、他にもない弓子が、練習をおろそかにするのを最
も嫌うことをよく承知していたからです。幸い練習直前に手術
が無事成功したとの知らせがあり、その日は普段よりもふわふ
わした気分での練習指導になっていたかも知れません。

その後、約1週間の経過観察を経て、最初に脳の手術を受け
た病院に再入院することとなりました。こちらはリハビリの施設
が整っており、何より家から近いことが家族にとってはあり
がたく、これで回復もより早まるのではないかと楽観しかけま
したが、事はそう簡単ではありませんでした。最初の脳梗塞発
症から長期間寝たきりであったことによる筋力低下は想像をは
るかに上回るもので、またカテーテルを挿入した鼠径部の傷を

修復するための手術等も追加されたことも手伝って、歩行ど
ころか自力でベッドから降りることもできないという状態に。高
齢のため回復も遅く、このお便りを書いている3月上旬時点で
ようやくリハビリ病棟に移るといふ亀の歩みです。

病人の話ばかりを長々と、大変失礼致しました。ここまであ
りのままに書きましたのは、本人にとって大事な演奏会が間近
に迫っていることと大いに関連があるためです。

2026年3月24日[火] 19:00開演
三鷹市芸術文化センター 風のホール
★第2次シュッツ全作品連続演奏★第3回
『受難楽の夕べ』（チラシ同封）

～ モテットと受難曲で迎える《イエスの生涯》～

第1部：ハインリヒ・シュッツ モテット撰

重唱 ◆ アンサンブル・サギタリウス

合唱 ◆ ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

指揮 ◆ 淡野太郎

第2部：ハインリヒ・シュッツ 《ヨハネ受難曲》

福音史家 ◆ 及川豊

イエス ◆ 浦野智行

ピラト ◆ 淡野太郎

合唱 ◆ ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

指揮 ◆ 淡野弓子

そうです、今回の《ヨハネ受難曲》の指揮は淡野弓子が予定
されています。そして現在のところ、その予定に変更はないこ
とをここに申し添えておきます。

これについて弓子より「皆さんに是非伝えてほしい」と口頭
でメッセージを託されましたので、ご紹介させていただきます。

「この度は皆様にご多大なご心配とご迷惑をおかけし申し訳あ
りません。今はこんな状態ですが、なんとか今度の舞台に乗り
たいと努力しておりますので、どうか共に祈りいただけまし
たら幸いです」（淡野弓子）

弓子は、私が幼少の時分から事あるごとに「他が全部動かせ
なくなっても私の右手だけは無事であってほしい。ここさえ動
けば最低限指揮はできるから」と申しておりました。本番の日
程が間近に迫る中、現実的でないことは百も承知の上で、また
一個人の勝手な願望に過ぎないかも知れませんが、今回ばかり
は指揮者の予定をこのままとさせていただくこと、どうかご容
赦とご理解のほど、平にお願い申し上げたく存じます。

なお、本人が無事に舞台に乗れた場合、副指揮者として淡野
太郎が横に着いて必要な補助を行うこと、また仮に本番までに
指揮できる状態まで回復しなかった場合、第2部の指揮も太郎
が行います。いずれにせよ曲目変更や中止の選択肢はございま
せんので、その点についても何卒ご了承くださいます。

改めまして、この度のご案内が大変遅れましたこと、重ねて
お詫び申し上げます。お時間がおありでしたら、どうぞご来聴
賜りたく、謹んでご案内差し上げる次第です。

~~~~★☆☆~~~~

**ご報告**

2025年10月31日 [金] 19:00開演  
三鷹市芸術文化センター 風のホール  
★第2次シュッツ全作品連続演奏★第2回  
『レクイエムの集い』

H.シュッツ、H.ヘルツォーゲンベルク、  
G.ガブリエリの追悼歌撰

独唱・重唱・器楽 ◆ アンサンブル・サギタリウス

ソプラノ 今村ゆかり／柴田圭子／笠恵里花  
アルト 依田卓  
テノール 板谷俊祐／及川豊  
バリトン 浦野智行／淡野太郎  
バス 中川郁太郎

ヴァイオリン 石川和彦／二宮昌世  
コルネット 上倉武  
サクバット 宮下宣子／生稲加奈代／生稲雅威  
ヴィオローネ 西澤誠治  
オルガン 椎名雄一郎

合唱 ◆ ハイน์リヒ・シュッツ合唱団・東京  
指揮 ◆ 淡野太郎／淡野弓子

シュッツはその生涯の大半を「聖書の御言葉を音楽で語ること」に費やしてきたと言っても過言ではありません。そのためか、またはもっと深い別の理由があるのかは探り切れませんが、実はシュッツの音楽は語弊を恐れずに言えば、「情緒の音楽」ではありません。人間の感情表現は二の次、ひたすらに神の音律を表現しようとしていたかのように感じられるのです。それでいて決して突き放したような、あるいは冷徹に感情を排して淡々と語るばかりというようなものでもなく、どこまでも神の真理に迫り続け、それが極まった瞬間の音こそが何よりも人の心を強く打つのではないのでしょうか。

この日の演目はレクイエムに相応しく、追悼行事で歌われるものがほとんどでしたが、一般的な葬儀のようなしめやかな雰囲気のものも少なく、生命力にあふれ、ともすると喜びの方がよほど強く感じられる作品が多くなったと思います。

このようなシュッツの作曲の姿勢を遠く時代を隔ててもなお正当に受け継いでいるヘルツォーゲンベルクのモテット、そしてシュッツの師匠であるジョヴァンニ・ガブリエリの複合唱様式の作品、いずれも共通するのは「根底に備わる神への信頼と深い喜び」といったところでしょうか。人の心をこれほど深く動かすことのできる作曲家たちの作品に出会い、しかもそれを演奏できることの幸いを改めて感謝する会となりました。

この演奏会については、昨年12月24日付の毎日新聞「コンサートからの問い」にて梅津時比古氏によってご紹介いただき、「異なる個性が皆、そのままに声を生かし（中略）違うからこそ、ハーモニーが生まれる」等、私どもが常に大事にしていることを的確に評してくださいました。今後ともひとりひとりが与えられた声を恐れることなく出し、そこでしか生まれない響きを求めて歌い続けていく所存です。

~~~~★☆☆~~~~

本郷教会Soli Deo Gloria 2026

〈ただ神にのみ栄光〉 ～讃美と祈りの夕べ～
日本キリスト教団 本郷教会礼拝堂 [入場無料]
(杉並区上荻4-24-5、Tel:03-3399-2730)

Vol.443 4月5日(日)18:00

復活祭第1日のためのカンタータ
J. S. バッハ：復活祭オラトリオ BWV249
《来たれ、急げ、走れ》他

Vol.444 4月19日(日)18:00

復活祭第2日曜日のためのカンタータ
J. S. バッハ：教会カンタータ第112番
《主は我が信実なる牧者》他

Vol.445 5月10日(日)18:00

復活祭第5日曜日のためのカンタータ
J. S. バッハ：教会カンタータ第87番
《嘗(かつ)ては汝ら我が名によりて祈らざりけり》他

Vol.446 5月24日(日)18:00

聖霊降臨祭第1日のためのカンタータ
J. S. バッハ：教会カンタータ第74番
《人もし我を愛せば我が言(ことば)を守らん》他

Vol.447 6月7日(日)18:00

三位一体祭後第1日曜日のためのカンタータ
J. S. バッハ：教会カンタータ第39番
《飢えたる者に汝のパンを分ち与えよ》他

~~~~★☆☆~~~~

2026年7月3日 [金] 19:00開演  
府中の森芸術劇場 ウィーンホール  
★ムシカ・ポエティカ特別公演★  
〔メンデルスゾーン・コーア創立20周年記念演奏会〕  
全席自由 4,000円 (学生2,500円)

F.メンデルスゾーン  
《最初のヴァルプルギスの夜》  
《交響曲第2番『讃歌』》

合唱 ◆ メンデルスゾーン・コーア  
ハイน์リヒ・シュッツ合唱団・東京  
器楽 ◆ ユビキタス・パッサ  
指揮 ◆ 淡野太郎

早いもので今年、メンデルスゾーン・コーアは創立20周年を迎えることとなりました。皆さまのこれまでの御支えに感謝申し上げます。記念として、これまでに演奏したことのない交響カンタータ《讃歌》と、異教徒の姿を生き生きと描いた《最初のヴァルプルギスの夜》という、どこからどこまでも対称的な2作品をカップリングしました。詳細はまた日を改めてお知らせ申し上げます。

~~~~★☆☆~~~~

では皆様、どうか御身お大切に。
2026年3月 ムシカ・ポエティカ 淡野太郎